

今月の目標

挨拶は

人間らしく生きるための基本の心である。

親に挨拶の心がないと、

それは必ず子供にも表れる。

野村克也



10/1

(日)

子どもは親の背中を見て育つ！

新学年が始まり早や半分の折り返し地点となる10月。

あれもこれもしよう、と意気込んだ当初の目標はかなり押され気味。

生徒にいつも言うように「コツコツ毎日やりなさい」も今は自分に向けた戒めとなるようで、反省しきり。

子供たちに「あーしなさい。こーしなさい。」と言わなければならないのが大人の役割。

それは経験から出るアドバイスであって、自分自身が出来ていなかったことを悔やんで子供に伝えるということではないでしょうか。

ほとんどの大人たちが我が子にしていることですよね。でもなかなか伝わらない。

しまいには「なんでわからないの」って怒ってしまう悪循環。

でも、子供目線に戻ってみると、

「だって大人たちも出来てないじゃん」の一言に尽きるような気がします。

大人たちが頑張っている姿を見せなければ、子供たちには伝わらない。

いたってシンプルな考え方ですが、一番伝わりやすい方法ではないでしょうか。

時間を守る、提出物の期限を守る、など“当たり前のルール”を自然にスッとやってのけるその姿を見て、子供たちは“そういうものなのか”と理解するはずです。

「子供は親の“言うとおりに”にはしないが、“するとおりに”にする」ということを親の心得として持っておくべきではないでしょうか？



10/2(月)～「診断テスト 対策授業 スタート」

君の1年の学習成果が試されるテスト。結果にコミットするために早めの準備を

① 数学は問題に慣れること！

難しいと思われている問題も、類似問題を数多く解くことで、解法のパターンが見えてきます。そうなるまでひたすら反復。毎回、チェックテストをしますので確実な解法を身に付けて下さい。

答えよりも解き方を教える対策を行います！



② 英語は訳すことが前提！

英語は当然英文が書かれてあります。書かれてある英文がすべて日本語に訳せなければ問題を解けるはずがありません。

まずは算数の九九と同様に単語をすべて訳せる努力をしましょう。習った単語以外は出ません。また、選択問題で記号を選ぶとき、雰囲気を選んでではダメです。なぜそれを選ぶのか？その理由を書いていくようにしましょう。それが英語の力です。

どうしてそれが答えになるのかを教える対策を行います

③ 理科・社会は授業日以外にやりませんか？

限られた時間の中で、優先順位をつけると英語・数学からの指導になります。

「放っておいていいの？」 良いわけありません。

そこで、**理社映像付き問題演習**（有料）を授業日以外に来てやりませんか？

週何回でも定額で映像が見られます。また練習問題プリントも何枚でも出せます。

範囲が広いので、もう忘れていたことの多い理社ですが、短いポイント映像でもう一度復習ができます。忘れていたことを思い起こすのに最適なツールです。

1か月単位で使用できますので、今月は理科・来月は社会というように利用して下さっても大丈夫です。定期テスト対策にも使用できます。

お申し込みは各教室長まで！

1か月/1教科

810円

(印刷代含む)



ちょっと紹介！

SNS にのっていた「かしこさ」を表す図が、なかなか言葉にできない感覚を上手に表現できていたのでご紹介します。

かしこさの階段



お子様の勉強やスポーツへの取り組み姿勢にあてはめてみて下さい。

また、大人における仕事への取り組み状況にも当てはまるようにも思えます。

先日、某テレビ番組でこんなことを言っていました。

「幼児期の英語教育では、英語で話せる思考力を培うべきだ。もっと言うなら英語よりも思考力を伸ばすべきだ。(要約)」と。

幼児だけではなく、学生と言われる時期に意識すべきことは、

「例えば自制心があるとか、物事をやりぬく力があるとかコミュニケーション能力があるとか様々な生きる力を身に付けることが出来る」ための**非認知能力**の育成だと思います。

この**非認知能力**について、今後少しずつご紹介していきたいと思っています。